

★ 学習系統別プログラム ★

本項目では、福祉教育の授業を行うにあたり、【子どもたちに何を学んで欲しいのか】、【どのような体験をさせたいのか】を考えるきっかけとなるよう、学習系統別のプログラム例を紹介いたします。授業内容を検討される際の参考としてご確認ください。

実施モデル	授業の名称
学習時間	必要な授業時間数
対象	授業を受ける対象
講師	ゲストティーチャーの例
ねらい	授業のねらい
学習により望める効果	授業を行うことで期待される効果
内容	授業で行う内容の例
会場	授業を行うに最適な場所
参加者準備	授業を行うにあたっての事前準備
必要物品	授業を行うにあたって必要な物品
予算	授業にかかる予算
事前学習	授業前に必要と考えられる取り組み例
事後学習	授業後に必要と考えられる取り組み例
注意事項	授業を計画・実施する上で注意すること
参加者の感想等	過去の授業での児童の感想・変化の例
備考	その他参考

※実際に取り組まれる際には、児童の学年や対象人数、授業時間数等の条件が異なりますので、状況に応じて内容をご検討ください。

目 次

学習系統	プログラム	ページ
身体障がいについて学ぶ	身体障がいってどういうこと？	C-2
	高齢者になるってどういうこと？	C-3
	障がい者スポーツをやってみよう	C-4
視覚障がいについて学ぶ	目が見えないってどういうこと？	C-5
	盲導犬のお仕事って？	C-6
	点字に触れてみよう	C-7
	ブラインドサッカーをやってみよう	C-8
聴覚障がいについて学ぶ	手話をやってみよう	C-9
	聞こえないってどういうこと？	C-10
知的障がいについて学ぶ	知的障がい疑似体験	C-11
いのちについて学ぶ	妊婦体験・赤ちゃんふれあい体験	C-12
その他	昔遊びをしてみよう	C-13
	戦争体験	C-14

学習系統：身体障害について学ぶ

実施モデル	身体障がいってどういうこと？	授業時間	2コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	NPO 法人川崎介護福祉士会、障がい当事者（車いす利用者）			
ねらい	<p>・身体障がい者の方からお話を聞くことで、障がい当事者の方の気持ちや、普段の生活の様子等を知ることができる。</p> <p>・車いす体験をすることによって、車いすユーザーや介助者の気持ちを知り、普段生活している町の中にも、バリアフリー等の配慮があることに気づくことができる。また、車いすに乗ってみることで、普段の暮らし中での気づきを促し、移動の制約がある方への配慮など、これからの行動について考えるきっかけになる。</p>			
学習により望める効果	身体障がいとはどういうことなのか、どのように生活しているのかを知り、車いす体験をすることで、障がい当事者や介助者の気持ちについて理解することができる。			
内容	<p>車いすの体験学習、車いすユーザーによる講話</p> <p>《実施例》</p> <p>①講話「車いすを使う人はどんな人だろう」</p> <p>②車いすを知ろう (安全等の大切なこと・種類と名前・操作方法)</p> <p>③車いすを動かしてみよう (乗り方・降り方・段差・声掛け)</p> <p>④車いすユーザーの方からのお話</p>			
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所			
参加者準備	動きやすい服装（体操着やジャージ、運動靴）			
必要物品	車いす、カラーコーン、段差スロープ(踏み切り板)			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	<p>◆身体障がい者の大変さや困りごとを学ぶだけでなく、身体障がい者の方と関わり、どのように生活しているのか等を聞くことで、相手への理解を深める。</p> <p>◆車いす体験では、操作方法を学ぶだけでなく、体験を通して介助者や支援者の気持ちを理解し、「他人事」ではなく「自分事」として身近に捉えられるようにすることを目的とする。</p>			
参加者の感想等	<p>◆乗る前は楽だろうと思っていただけ、実際に乗ってみると不安で、車いすを押すときは、相手のことを考えて押すのが大事だと思いました。</p> <p>◆普段、車椅子を何気なく押しているように見えて、苦労していることもあるのだと初めて知ることができました。</p> <p>◆車いすの人に何かできることがあれば、自分からやっていきたいと思いました。</p>			
備考				

学習系統：高齢者になるってどういうこと？

実施モデル	高齢者疑似体験	授業時間	2～4コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	NPO 法人川崎介護福祉士会、高齢者施設			
ねらい	高齢者の疑似体験を行うことによって、普段の暮らしでの気づきを促し、高齢者への配慮など、これからの行動について考えるきっかけとする。			
学習により望める効果	高齢者や介助者側の気持ちを理解することができる。			
内容	<p>高齢者疑似体験、高齢者についての講話</p> <p>≪実施例≫</p> <p>①講話「高齢者について知ろう」</p> <p>②高齢者疑似体験 (高齢者の気持ち、介助者の工夫等を学ぶ)</p> <p>③社会調査 (交通機関、街中での工夫など)</p>			
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所 日常生活を体験できる場（階段の昇降など）			
参加者準備	動きやすい服装（体操着やジャージ、運動靴）			
必要物品	高齢者疑似体験セット、日常生活を体験できるもの（ペットボトル、お箸、雑誌・新聞など）			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	◆体験での目的は、高齢者の大変さを学ぶだけではなく、疑似体験用具を装着している体験者を介助する体験も同時に行ない、体験を通して高齢者や介助者の気持ちも理解し、「他人事」ではなく「自分事」として身近に捉えられるようにすることを目的とする。			
参加者の感想等	<p>◆普段、分かっているようで分かっていない、高齢者の体や気持ちはとても重く、大変なものでした。</p> <p>◆私は今まで、前で歩いている高齢者を「遅いなあ」と思ったことがあったけれど、この体験で高齢者の気持ちが少し分かったので、よかったです。</p>			
備考				

学習系統：身体障がいについて学ぶ

実施モデル	障害者スポーツをやってみよう	授業時間	2～4コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	障害者スポーツクラブチーム等			
ねらい	身体障がい者の方からお話を聞き、一緒にスポーツをすることで、障がい当事者の方の気持ちや普段の生活の様子等を知り、障害者への心のバリアを取り除き、自分とは違う何かを受け入れる多様性を育む。			
学習により望める効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニケーションの重要性 声を出すことや聞くこと、相手を思いやる気持ちなど、コミュニケーションの重要性に気付ける。 ◆個性の尊重 ハンディを持つことでわかる、自分の得意なことや苦手なこと、強みや弱み。そうした一人ひとりの違いや多様性を認識したうえで、さらに自分に何が出来るのかを考えられる。 ◆チームワークの大切さ スポーツを通して、積極的に仲間と支え合わなければ成し遂げられないことや、仲間との信頼関係の大切さを実感できる。 ◆その他にも、チャレンジ精神の醸成、障害者への理解促進、ボランティア精神の育成が期待できる。 			
内容	<p>障害者スポーツを通じた体験学習・講話</p> <p>《実施例：車いすラグビー》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①導入（デモンストレーション） ②車いす体験（コース走行、クラッシュ） ③車いすラグビーについて ④講話（車いすラグビーを始めたきっかけ、選手のできること・できないことクイズ） ⑤まとめ（気づきの共有） 			
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所			
参加者準備	動きやすい服装（体操着やジャージ、運動靴）			
必要物品	カラーコーン			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	◆運動制限や障害等による特別な配慮が必要な参加者がいる場合には、依頼の際にその旨を申し出てください。			
参加者の感想等	<ul style="list-style-type: none"> ◆目の前でタックルを見て、迫力があってびっくりしました。自分で車いすに乗ってみたら操作がむずかしくて、選手が素早く動いたりするのがすごいことなると分かりました。 ◆タックルは怖かったけど、楽しかった。一緒にスポーツができてよかった。 			
備考				

学習系統：視覚障害について学ぶ

実施モデル	目が見えないってどういうこと？	授業時間	1～2コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	NPO 法人川崎介護福祉士会、障害当事者（視覚障害のある方）、ガイドヘルパー			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者の方からお話を聞くことで、障がい当事者の方の気持ちや、普段の生活の様子等を知ることができる。 ・視覚障がい体験をすることによって、障がい当事者や介助者の気持ちを知り、普段生活している町の中にも、バリアフリー等の配慮があることに気づくことができ、これからの行動について考えるきっかけになる。 			
学習により望める効果	視覚障がいにより困ることやどのようなサポートがあるかを知り、障害に対する理解を深めることができる。また、介助する側、される側の体験を通し、相手を思いやる気持ちや他者を理解しようとする気持ちを養うことができる。			
内容	視覚障がい体験、視覚障がい者からの話 ≪実施例≫ ①講話「目が見えないってどういうこと？」 「コミュニケーションの方法」 「ガイドヘルパーのお仕事」 ②視覚障がい体験 （安全等の大切なこと・白杖について） ③社会調査 （交通機関等でのサービス、ガイドヘルパーなど）			
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所			
参加者準備	アイマスクがない場合には、てぬぐいやタオルで代用			
必要物品	アイマスク・白杖、視覚障害者が利用している生活用品等（講師準備）			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ◆視覚障がい体験では、白杖の使い方や障がいの大変さではなく、相手のことを知り、相手を思いやる気持ちや他者を理解しようとする気持ちを養うことを目的にする。 ◆白杖・アイマスク体験中の事故が増えているため、体験時は階段等危険な場所での体験は、なるべく避ける。体験時には必ず複数の大人で見守る。 			
参加者の感想等	<ul style="list-style-type: none"> ◆実際にやってみようと思ったことは、信号待ちしている人がいたら声をかけてあげるようにしようと思いました。 ◆アイマスク体験が一番怖かったのは、人とすれ違うところです。人の声がだんだん近づいてくると怖くなってしまい止まってしまいました。けれど、介助の人が一生懸命声をかけてくれたので安心して歩くことができました。 			
備考				

学習系統：視覚障害について学ぶ

実施モデル	盲導犬のお仕事って？	授業時間	1～2コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	盲導犬ユーザー			
ねらい	盲導犬ユーザーの方のお話を通じて視覚障害への理解を深め、自分たちにもできることを考える。			
学習により望める効果	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者の方からお話を聞くことで、障がい当事者の方の気持ちや、普段の生活の様子等を知ることができる。 ・盲導犬のお仕事を知ること、普段生活している町の中にも障がい者への配慮があることに気づくことができ、目の見えない方への配慮など、これからの行動について考えるきっかけになる。 			
内容	盲導犬ユーザーからの話			
	<p>《実施例》</p> <p>①講話「目が見えないってどういうこと？」 「コミュニケーション方法」</p> <p>②盲導犬のお仕事について</p> <p>③社会調査 (交通機関等でのサービス、ガイドヘルパーなど)</p>			
会場	教室など			
参加者準備	特になし			
必要物品	特になし			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	◆視覚障がい者の大変さや困りごとを学ぶだけでなく、視覚障がい者の方と関わり、どのように生活しているのか等を聞くことで、相手への理解を深め、「他人事」ではなく「自分事」として身近に捉えられるようにすることを目的とする。			
参加者の感想等	<ul style="list-style-type: none"> ◆盲導犬が視覚障がいの方の目の役割をしていることがよくわかりました。 ◆盲導犬が人間に優しくしてくれるように、私も人に優しくしてあげたいと思った。 ◆盲導犬のことは、あまり詳しくは知らなかったけれど、盲導犬はこんなに目の不自由な人のために働いているのだなと知りました。もっともっと盲導犬のことが知りたいなと思いました。 			
備考				

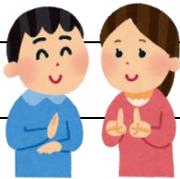
学習系統：視覚障害について学ぶ

実施モデル	点字に触れてみよう	授業時間	1～2コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	点字サークル、障害当事者団体			
ねらい	点字体験を通し、視覚障がいへの理解を深め、自分たちにもできることを考える。			
学習により望める効果	点字を知ることで、普段生活している町の中に視覚障がいの方が不便に感じている部分や、バリアフリー等障がい者への配慮があることに気づくことができ、目の見えない方への配慮など、これからの行動について考えるきっかけになる。			
内容	視覚障害者からの話			
	<p>≪実施例≫</p> <p>①講話「目が見えないってどういうこと？」 「役立つ点字など」</p> <p>②点字体験 (点字の使い方について)</p> <p>③社会調査 (交通機関等でのサービス、ガイドヘルパーなど)</p>			
会場	教室など			
参加者準備	特になし			
必要物品	簡易点字器、点字表、机、点字用紙			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	<p>◆点字を学ぶことを目的とするのではなく、視覚障がいの方が街のどこに不便さを感じて、街や日常生活のどんな所で視覚障がい者向けに工夫されているのかに留意し、障がいのある人も無い人も皆が同じ地域で生活していることを知る。</p> <p>◆視覚障がい者について「怖い」「大変」「可哀想」といったマイナスイメージを残すのではなく、相手を思いやる気持ちや、他者を思いやる気持ちを養うようにする。</p>			
参加者の感想等	<p>◆目が不自由でいても、他の人の力を借りれば、他の人と同じように暮らせること、音声でわかるケータイがあることなど・・・他にもいっぱい知りました。</p> <p>◆切符売り場など、生活の身近なところに点字があることを知りました。これからは普段の生活の中で少し意識してみようと思いました。</p>			
備考				

学習系統：視覚障害について学ぶ

実施モデル	ブラインドサッカーをやってみよう	授業時間	体験授業は2コマ90分を推奨 (授業時間はアレンジ可能)
対象	小学校、中学校、スポーツ団体（高等学校、大学は応相談）		
講師	日本ブラインドサッカー協会		
ねらい	視覚障害への理解を深め、自分たちにもできることを考える。 障害者への心のバリアを取り除き、自分とは違う何かを受け入れる多様性を育む。		
学習により望める効果	<p>◆コミュニケーションの重要性 視覚に頼らないから、声を出すことや聞くこと、相手を思いやる気持ちなど、コミュニケーションの重要性に気付ける。</p> <p>◆個性の尊重 ハンディを持つことでわかる、自分の得意なことや苦手なこと、強みや弱み。そうした一人ひとりの違いや多様性を認識したうえで、さらに自分に何が出来るのかを考えられる。</p> <p>◆チームワークの大切さ 目が見えない状態のため、積極的に仲間と支え合わなければ成し遂げられないことや、仲間との信頼関係の大切さを実感できる。</p> <p>◆その他にも、チャレンジ精神の醸成、障害者への理解促進、ボランティア精神の育成が期待できる。</p>		
内容	アイマスクを利用した体験学習、ボランティアや障害についての講話		
	<p>≪実施例≫</p> <p>①導入（デモンストレーション）⇒②ワーク1：コミュニケーショングリッド（4～5人のチームに分かれ、アイマスクをした人としていない人の間でのゲーム）⇒③ワーク2：ブラインドダッシュ（アイマスクをしていない人の誘導で、アイマスクをした人が走るゲーム）⇒④講話「あきらめない気持ち」⇒⑤まとめ（気づきの共有）</p>		
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所		
参加者準備	動きやすい服装（体操着やジャージ、運動靴）		
必要物品	アイマスク、カラーコーン		
予算	スポ育プロジェクトでの実施の場合は無料（交通費・教材費・諸経費含む） ※上記以外の場合は、謝礼5万円と交通費実費		
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など ※日本ブラインドサッカー協会作成のDVDやテキストを用いた学習も可能		
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など ※日本ブラインドサッカー協会作成のテキストを用いた学習も可能		
注意事項	◆運動制限や障害等による特別な配慮が必要な参加者がいる場合には、依頼の際にその旨を申し出てください。		
参加者の感想等	◆選手やコーチの話から目の見えない人にどう接したら良いかなど、気付かされることがたくさんありました。見えることで当たり前のようにしていたコミュニケーションについて、「相手の事を考える」とはどのようなことなのかを考えさせられました。		
備考	詳細については、スポ育専用WEBサイト又は、パンフレット「スポ育のすすめ」をご参照ください。パンフレットを希望される方はお申し出ください。		

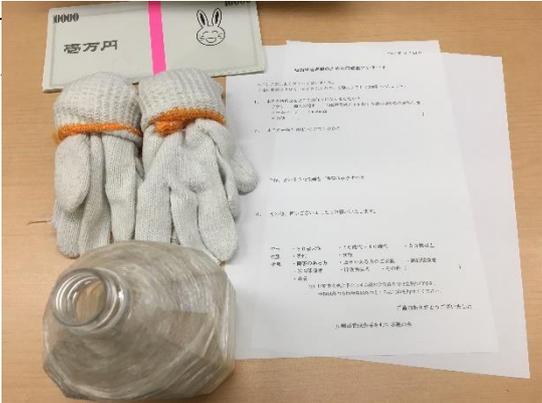
学習系統：聴覚障害について学ぶ

実施モデル	手話をやってみよう	授業時間	1～2コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	当事者（聴覚障害のある方）、手話サークル			
ねらい	聴覚障がい者への理解を含め、自分たちにも出来ることを考える。			
学習により望める効果	手話を知ることで、普段生活している町の中に聴覚障がいの方が不便に感じている部分や、テレビでの字幕等、普段の生活の中にも障がい者への配慮があることに気づくことができる。また、耳の聞こえない人とどのようにコミュニケーションをとればいいのか等、これからの行動について考えるきっかけになる。			
内容	<p>聴覚障害者からのお話・手話の体験学習</p> <p>《実施例》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①誰が聞こえない人かな？ ②宿題の感想→5分間テレビを消して見る ③同じ言葉（例：サッカー）を口話・空書・身振り・指文字・手話で伝える ④当事者に聞いてみよう ⑤福祉機器の説明 ⑥ろう学校・聴覚障害者情報提供施設について 			
会場	教室など			
参加者準備	特になし			
必要物品	黒板／ホワイトボード、マグネット			
予算	応相談（交通費等のご用意をお願いします。）			
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など			
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など			
注意事項	<p>◆手話を学ぶ事が目的にならないよう、耳の聞こえない方とのコミュニケーション方法の一つであることを理解するように留意する。</p> <p>◆聴覚障がいについて「怖い」「大変」「かわいそう」といったマイナスイメージを残すのではなく、相手を思いやる気持ちや他者を理解しようとする気持ちを養うようにする。</p>			
参加者の感想等	<p>◆言葉だけでなく、コミュニケーションにも色々なものがあることを知りました。</p> <p>◆見た目だけでは、誰に障害があるのか分からなかった。障害は、目に見て分かるものだけでないことが分かった。</p> <p>◆音が聞こえなくても、工夫すれば普通に生活することが出来ることがわかった。</p>			
備考				

学習系統：聴覚障害について学ぶ

実施モデル	聴こえないってどういうこと?	授業時間	1～2コマ
対象	小学校、中学校、高等学校、大学		
講師	当事者（聴覚障害のある方・難聴者）・要約筆記を行っている団体		
ねらい	聴覚障害者への理解を含め、感じる不安感等を実感してもらうことと同時に、わずかな配慮があるだけで聴覚障害者とのコミュニケーションがスムーズになることを考えるきっかけにする。		
学習により望める効果	聴覚障害により困ることや、どのようなサポートがあるか、障害に対する理解を深め、相手を思いやる気持ちや他者を理解しようとする気持ちを養うができる。		
内容	<p>難聴体験 聴覚障害者・難聴者・要約筆記ボランティアからのお話</p> <p>《実施例》</p> <p>①読話＝話し手の口唇の形や動きを読み取るもの ②様々な音を聞きながら指示を聞いてみよう ④当事者に聞いてみよう ⑤福祉機器の説明</p>		
会場	教室など		
参加者準備	特になし		
必要物品	紙、ペン		
予算	応相談（交通費等のご用意をお願いします。）		
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など		
事後学習	感想文の作成、話し合い活動、発表の場（報告会）の設定など		
注意事項	<p>◆コミュニケーション方法の一つであることを理解するように留意する。</p> <p>◆聴覚障がいについて「怖い」「大変」「かわいそう」といったマイナスイメージを残すのではなく、相手を思いやる気持ちや他者を理解しようとする気持ちを養うようにする。</p>		
参加者の感想等	<p>◆その場で話題になっていることやどう行動すべきなのか等の情報が得られずに、一人だけ取り残された気持ちになる。</p> <p>◆言葉だけでなく、コミュニケーションにも色々なものがあることを知りました。</p>		
備考			

学習系統：知的障がいについて学ぶ

実施モデル	知的障がい疑似体験をしてみよう	授業時間	1～2コマ
対象	小学校、中学校、高等学校、大学		
講師	かわさきキャラバン隊（川崎市育成会手をむすぶ親の会）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がいのある人のとまどう気持ちや不安、喜びといった“あなたとおなじもち”を感じる。 ・みんなが同じ地域で生活していること、障がいの有無に関わらず、少しの声かけや手伝いがあれば、地域での生活がしやすくなる人達がいることを知る。 		
学習により望める効果	障がいのある人の戸惑いや不安、喜びを感じることで、普段の暮らし中での気づきを促し、「障がいのある人も無い人も、共に同じ地域で理解しあいながら暮らししていくにはどうすればいいか」という視点で、これからの行動について考えるきっかけとする。		
内容	<p>知的障がい疑似体験</p> <p>≪実施例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに 私たちの活動について ・疑似体験 <ol style="list-style-type: none"> ①絵にしてみよう ②数えてみよう ③のぞいてみたら… ④これなあに？ ⑤ピカピカ王国を体験…？ 		
会場	教室など		
参加者準備	特になし		
必要物品	特になし（内容によっては、プロジェクターを使用して説明をします）		
予算	応相談（交通費程度）		
事前学習	調べ学習、話し合い活動、資料の配布など		
事後学習	話し合いの場、意見発表の場（報告会）、支援級との交流の場の設定など		
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ◆体験の目的は、「怖い」「大変」「かわいそう」といった感情を抱くのではなく、自分達と同じ気持ちを持つ人であることに気づくとともに、支援（手伝い）の仕方次第で、お互いに生活しやすい関係を築けることを知る。 ◆児童の中で特別な配慮が必要とされる場合があれば、講師依頼書にその旨を記載する。 		
参加者の感想等	<ul style="list-style-type: none"> ◆言葉で聞くだけでなく、実際に自分で体験するので学ぶことが多くよかったです。 ◆体験することで、知的障害のある人の不安な気持ちや困難さ、楽しい気持ちも知ることができました。 ◆どんなことをするんだろうと思っていましたが、まさしく「体験」でした。知的障害や発達障害について理解が深まりました。 		
備考			

学習系統：いのちについて学ぶ

実施モデル	妊婦体験・赤ちゃんふれあい体験	授業時間	1～2コマ	
対象	小学校、中学校、高等学校、大学			
講師	助産師、産婦人科医、養護教諭、保健師、子育て支援団体等			
ねらい	生命の尊さ、大切さを感じ、親から愛情を持って育てられたことを理解する。また、妊婦さんや赤ちゃんとの関わりや体験を通じて、相手の立場に立って物事や行動を見直し、自分に出来ることを考える。			
学習により望める効果	生命の尊さ、大切さを感じることが出来る。			
内容	助産師による講話、妊婦体験、赤ちゃんふれあい体験			
	<<実施例>> ①助産師による講話「命の尊さ」 ②妊婦体験（妊婦ジャケットによる体験） ③赤ちゃんふれあい体験			
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所			
参加者準備	動きやすい服装（清潔な体操着やジャージ、運動靴） 風邪気味の場合は無理をせず、また、マスクを着用するよう指導する。 衛生面に配慮し、手洗いの実施後の体験とする。（必要に応じて、アルコール消毒を用意する）			
必要物品	妊婦ジャケット、体育館マット、段差用教壇、長机、ベビーカー、新生児人形、ベビーカー用重りペットボトル、おもちゃ			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	理科「受け継がれる命」「動物の誕生」 両親に自分の産まれたときのことを聞いてみるなど			
事後学習	保護者と話し合う場の設定、感想文の作成、意見発表の場（報告会）など			
注意事項	◆体験の目的は、「怖い」「大変」「かわいそう」といった苦勞を強調したり実感することではなく、様々な苦勞の背景にある支えとして、生まれてくる子どもへの愛情があることを考えさせることにおく。 ◆児童の中で特別な配慮が必要とされる場合があれば、講師依頼書にその旨を記載する			
参加者の感想等	◆助産師さんが言っていたけれど、僕のために母が「命」をかけて産んでくれたんだらうと思うと、涙が出てきそうでした。これからも両親からもらった「命」を大切にしていきたいです。 ◆今ここに生きられているということがすごく幸せなことなんだと思いました。			
備考				

学習系統：その他

実施モデル	昔遊びをしてみよう	授業時間	1～2コマ	
対象	小学校			
講師	老人クラブ、町会・自治会等			
ねらい	お年寄りの方に、昔遊びのコツを教わりながら、昔遊びの楽しさや面白さに気づく。地域のお年寄りの方との交流する時間を大切にする。			
学習により望める効果	お年寄りの方との交流を深めながら、地域への愛着を芽生えさせる。			
内容	昔遊びを各コーナーに分かれて体験、教えてもらったことの発表			
	≪実施例≫ ①けん玉 ②独楽 ③お手玉 ④おはじき ⑤羽子板 ⑥折り紙 ⑦あやとり など			
会場	体育館等の子どもたちがのびのびと体を動かせるスペースのある場所			
参加者準備	動きやすい服装・運動靴			
必要物品	座卓、ござ、マット、ストーブ（場所や遊びの種類・季節による） 遊び道具（けん玉・お手玉・おはじき・あやとりなど）			
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）			
事前学習	自分たちが今遊んでいるものを挙げる、体験する遊びについて調べる			
事後学習	手紙の交流、感想文の作成、自分達の今の遊びとの違いをまとめる、話し合いの場設定			
注意事項	◆遊び方を教わる中で、どのように子どもの頃を過ごしたのか、また、ふるさとの思い出などを聞くことによって、自分達の今の過ごし方の大切さを学びましょう。 ◆児童の中で特別な配慮が必要とされる場合があれば、講師依頼書にその旨を記載する。			
参加者の感想等	◆今は一人でやるゲームが多いけれど、昔の遊びは友達と一緒にやる遊びが多かった。けん玉が難しくてなかなかできなかったけど、地域のお年寄りの方が上手ですごいと思った。 ◆お手玉をたくさん教えてくれてありがとうございます。おかげで3つお手玉ができるようになりました。			
備考				

学習系統：その他

実施モデル	戦争体験講話	授業時間	1～2コマ
対象	小学校、中学校、高等学校、大学		
講師	戦争を語るつどい、老人クラブ、町会・自治会等		
ねらい	戦争体験や戦後の時代を支えてきた方のお話を聞き、生きること、生活することの貴重さや、過去の出来事を受け継ぐという考え方を学ぶ。		
学習により望める効果	生きることの大切さを理解することができる。		
内容	<p>戦争体験のお話</p> <p>＜実施例＞</p> <p>①「自分が子どもだった頃の生活・学校の様子」 ②「どんな将来を望んだか」 ③「これからの時代を担う世代に向けて」など</p>		
会場	教室など		
参加者準備	特になし		
必要物品	特になし		
予算	応相談（交通費・資料代等のご用意をお願いします。）		
事前学習	自分の祖父母・近所の高齢者に戦争体験を聞いてみる、調べ学習など		
事後学習	話し合いの場、意見発表の場（報告会）の設定など		
注意事項	<p>◆遠い昔の話ではなく、今の自分達の暮らしと繋げて考えられるよう配慮する。</p> <p>◆児童の中で特別な配慮が必要とされる場合があれば、講師依頼書にその旨を記載する。</p>		
参加者の感想等	<p>◆戦争体験した方のお話を聞いて、今の自分達と同じ年齢の時には全く別の生活をしていたと知りました。教科書で勉強することと実際に体験した方のお話を聞くのでは全然違うと思いました。</p> <p>◆地域で昔から伝わるもの、昔からあるものを大切にしようとする姿勢が身についた。</p>		
備考			

